

(案)

「u - J a p a n政策」

骨子

平成16年5月に「u - Japan構想」を発表し、その後の具体化を経て「u - Japan政策」として発表するもの。

平成16年12月
ユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会

～目次～

第 編	u - Japan政策の背景	
	2010年へ向けた課題とICTの可能性	3
	時代の流れに沿った政策手法の変化	4
第 編	2010年のu - Japan	
	2010年に向けた構想としての骨格	6
	わが国の生活者が直面する具体的な課題とICT	7
	u - Japanの理念	8
	u - Japanの具体的な利用シーン例(生活面)	9
	u - Japanの具体的な利用シーン例(産業面)	10
	u - JapanにおけるICT産業	11
第 編	u - Japan政策パッケージ	
	「u - Japan政策パッケージ」の全体像	13
	「u - Japan政策」の特徴	14
	u - Japan政策パッケージ(1):ユビキタスネットワーク整備	15
	u - Japan政策パッケージ(2):ICT利活用の高度化	16
	u - Japan政策パッケージ(3):利用環境整備	17
	u - Japan政策パッケージ(4):その他横断的な施策	20
第 編	u - Japan政策実施のあり方	
	民産学官の有機的な連携	22
	工程表とPDCA	23

第 編 u - J a p a n 政策の背景

2010年へ向けた課題とICTの可能性

■ ICT分野は構造改革の優等生、2005年には世界最先端のICT国家へ

「2005年までに世界最先端のIT国家となる」というe-Japan戦略の目標は、IT戦略本部を中心とした政府一体の取組を通じ、インフラ面を中心に達成目前。ICTの利活用拡大が当面の課題。今後も目標実現を確実にするため、e-Japan戦略等を着実に推進。

■ 一方、2006年以降に到来する本格的な少子高齢化社会では、解決すべき課題が山積み

生活・社会

- 2007年からの人口減少の歯止め
- 高齢者の住みやすい環境整備
- 食品の安全性に対する信頼回復
- 地域コミュニティの信頼関係強化

医療・福祉

- 遠隔医療等患者中心の医療実現
- 情報公開等による医療過誤対策
- 年金に対する不安解消

交通・物流

- 交通事故の削減、渋滞や満員電車の緩和
- 高齢者や障害者に優しいバリアフリー環境の整備

環境・エネルギー

- 進展する地球温暖化の歯止め
- ゴミ減量化やリサイクルの強化
- 太陽等自然エネルギーの開発
- 遺伝子操作等バイオ技術の適正利用

雇用・労働

- 高齢者の就労機会の確保
- フリーター等若年労働者の失業対策
- 育児支援等女性の就労環境の改善
- 実力主義や雇用流動性の確保

教育・人材

- 「数学」「理科」嫌いの増加回避
- 深刻化する青少年犯罪の防止
- 大学・大学院の国際競争力強化

治安・防災

- テロや凶悪犯罪への不安解消
- 地震、台風や大事故等の災害対策
- ビッキング等の治安への不安解消

経済・産業

- 経済の本格回復・競争力強化
- 製造業等の空洞化の防止
- ICTの経営導入による効率化促進
- 日本文化・芸術の海外進出強化

行政サービス

- 引越時等のワンストップサービスの実現
- 電子化・効率化等による財政再建

国際

- 国連等国際機関での発言力の確保
- 戦略的に重要なアジアとの関係強化

■ 社会基盤として定着しつつあるICTの利活用が、課題解決の「切り札」となることに期待大

情報家電、IPv6、電子タグ、ブロードバンド、デジタル放送等、日本の強みであるICT基盤技術が着実に実用化・汎用化
老後の不安を解決する介護・福祉支援システム、食の不安を解決する食品トレーサビリティ、治安への不安を解決するホームセキュリティシステム等、先駆的なICTの利活用方法の開発が進展 ユビキタスネット社会への期待が拡大

■ 2010年の次世代ICT社会の実現へ向けた中期ビジョン(u-Japan政策)が必要に

「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」という将来のユビキタスネット社会も手の届くところに。総務省として2010年に実現する新たな社会の姿(u-Japan)を明確に打ち出すとともに、必要な政策パッケージ(u-Japan政策)を策定。

時代の流れに沿った政策手法の変化

■ 社会経済やICTを取り巻く環境変化を踏まえ、政策手法の再検討が必要

社会経済やICTを取り巻く大きな流れを踏まえ、従来型政策手法の大胆な見直しや、新たな政策形成プロセスの確立が必要。

環境変化

新たな政策の方向性

社会経済の大きな流れ

成長から成熟へ	低成長を念頭におき、ゆとりや安心・安全などの価値観へ移行
中央から地方へ	地方主権・地方自立を進め、地域の資源や創意工夫を有効活用
官から民へ	民主体へ視点を転換し民(民産学)との連携・役割分担を拡大、自己責任原則を浸透
クローズドからオープンへ	情報公開やアウトカム評価を進め、政策決定過程を透明化
供給主導から需要主導へ	ニーズや嗜好の多様化が進み、利用者や生活者の視点を重視することが不可欠に
欧米依存からアジア重視へ	キャッチアップを脱し、独自性・創造性を重視すると共に、アジア重視を明確化
モノから情報・サービスへ	旧来型の公共事業から脱却し、知識や情報を生み出す社会資本整備へ転換

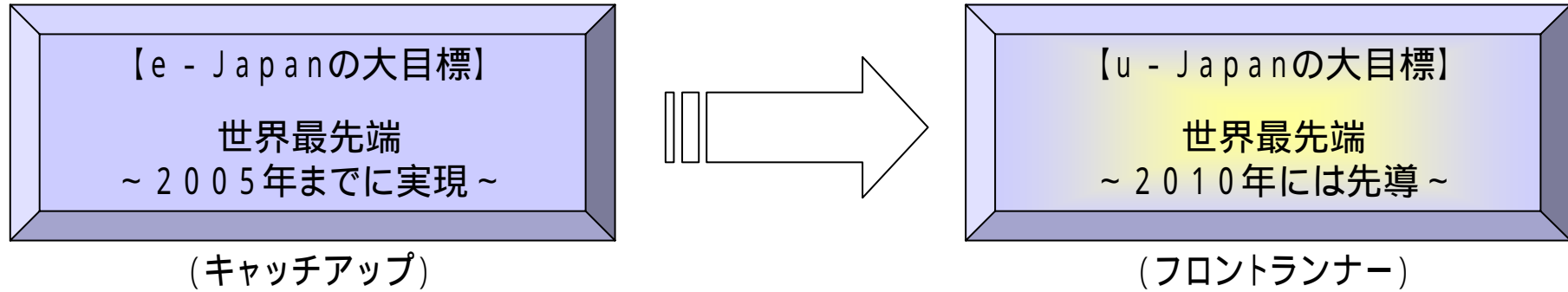
ICTの大きな流れ

アナログからデジタルへ	デジタル革命を推進するための、サイバー社会に対応した制度整備を重視
ナローバンドからブロードバンドへ	デジタルディバイドを解消し、あらゆる人の情報受発信を保障する仕組みを構築
固定から移動へ	電波利用が飛躍的に増大し、モバイル・ワイヤレスの利便性拡大が鍵に
事前規制から事後規制へ	ルール型行政の充実と一層の透明性を確保、紛争処理や消費者保護の比重が拡大
インフラから利活用へ	利用環境整備の行政需要が増大、ハコモノ投資からヒト・ノウハウ投資へ転換
プロからアマへ	誰でも情報を受発信できる環境の中、利用者間の社会規律の確立に寄与

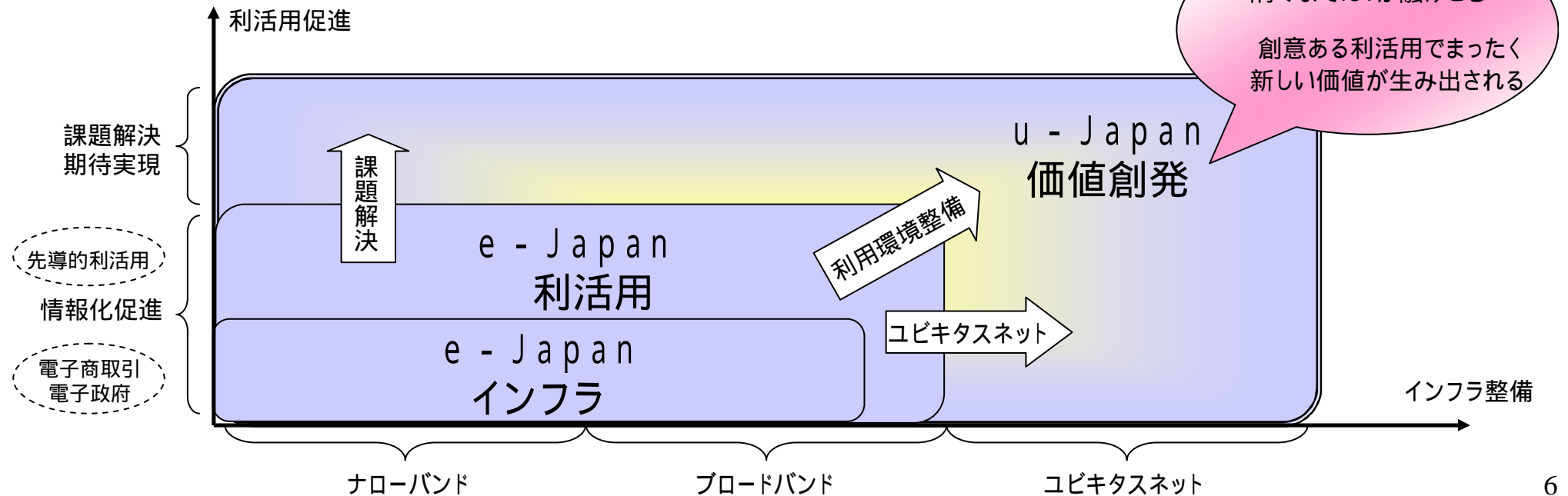
第 編 2010年のu - J a p a n

2010年に向けた構想としての骨格

大目標: フロントランナーとしての2010年の目標設定



基本思想: 「e」から「u」への進化



わが国の生活者が直面する具体的な課題とICT

■ 2010年に向けて解決すべきわが国の課題を、生活者アンケートから抽出

■ ICTの利活用がこれらの課題解決に寄与することに期待大 ICT利活用のモデル手法(ソリューション)が重要に

高齢者に優しい住宅

(例) 高齢者や共働き家族の幼児等を、各種センサーや家電の作動状況等から居場所や状態等を見守れることを要望

生活サポート

若年・中高年の社会参加

(例) 中高年や女性の再就職、若者の就職支援のため、能力評価と求人情報のマッチングや能力開発プログラムの紹介等を要望

転職・再就職等支援

交通渋滞・事故の削減

(例) 交通情報、経路情報等の充実によって渋滞を解消・抑制したり、自動車自律系システムや車車間・路車間通信等によって交通事故を削減することを要望

ネットワーク型運転支援

乗客のイライラ解消

(例) 公共交通機関の到着時刻や遅延情報、代替交通情報等をリアルタイムに入手できることを要望

公共交通情報ナビ

人に優しい
心と心の
触れ合い

災害時の安全確保

(例) 災害等において、被災者と家族等の間で、安否状況等の必要な情報がやりとりできることを要望

災害時の安否確認

食の安全・安心

(例) 食品(青果物、食肉、鮮魚、加工品等)に電子タグ等を貼付して、消費者が生産・流通履歴データを簡単にチェックできることを要望

食品トレーサビリティ

診療情報の効率的利用

(例) 病院等が診療情報を電子カルテとして交換することで、医療の質の向上や効率化、患者指向の医療サービス提供を要望

電子カルテネットワーク

リサイクル、ゴミ処理の推進

(例) 家庭や事業所から出る一般廃棄物に電子タグを分別後に貼付することで、ごみ種別の回収量の把握やリサイクル・処理の適正化を要望

資源・廃棄物
トレーサビリティ

ショッピングの効率化

(例) 情報端末の操作により、欲しい品物の位置や在庫の確認を容易にすることで、買い物が楽しく効率になることを要望

情報端末付き
ショッピング

行政手続きのオンライン化

(例) 住民票、婚姻届など一つ更新すればその他の更新も自動的に行われることを要望

行政手続き
自動更新

利用者の
視点が
融け込む

コンテンツへの自由なアクセス

(例) メタデータ(コンテンツの属性情報等)制御することで、著作権保護と利便性を両立させ、多彩なコンテンツがいつでもどこでもどんな端末からでも利用できることを要望

レビキタスコンテンツ流通

生涯学習の普及

(例) ネットを利用して誰でも講師や生徒になり、相互に受講し合うことで、地域に眠る知識を顕在化させることを要望

ネット市民塾

勤務形態の多様化

(例) 店舗などの対応業務のうち、必ずしも対面が必要でないものを手が空いている店舗等から遠隔対応できることを要望

店舗間遠隔対応

ホワイトカーの協業支援

(例) 経営層の企画・検討、意志決定の支援のため、各地に分散しながらバーチャルに集合して議論できることを要望

経営層コラボレーション支援

個性ある
活力が
湧き上がる

[注] 各課題毎に、代表的なICTソリューションを例示(矢印で示したもの)

u - Japanの理念

u - Japanは、次の特質を備えた2010年の次世代ICT社会

u - Japan (ユビキタスネット・ジャパン)

Ubiquitous (ユビキタス)
あらゆる人や物が**結びつく**

「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークに簡単につながる
・ICTが日常生活の隅々まで普及し、簡単に利用できる社会へ
人 - 人に加え、人 - モノ、モノ - モノが結ばれる
・あらゆる局面で、コミュニケーションがより重要な役割を担う時代に

Universal (ユニバーサル)
人に**優しい**心と心の触れ合い

人に優しい
・機器やネットワークを意識せず、誰でも簡単に利用
・ICTで、高齢者や障害者等も元気に社会参加
心が触れ合う
・心の触れ合うコミュニケーションで、世代や地域を越えた一体感を醸成

User-oriented (ユーザ)
利用者の視点が**融けこむ**

利用者に近い
・供給側の発想でなく、利用者の利便性をより強く意識した社会へ
・ニーズと強く結びついた技術やサービスを開発
利用者が供給者にも
・ネットワークの力によって1億総「プロシューマー」化

Unique (ユニーク)
個性ある活力が**湧き上がる**

個の活力が生み出される
・個人でも夢を持ち新たな挑戦が容易な社会へ
社会が活性化される
・新しい社会システムやビジネス・サービスが次々創出
・画一を脱し、創意工夫による地域再生を実現

u - Japanの具体的な利用シーン例 (生活面)

誕生日には何が欲しいんだい？

アニメをみていたら… あっ、おじいちゃん、おばあちゃんからメッセージだぞ！

ユビキタス端末でいつでもどこでもアニメを楽しむ

僕、水族館に行きたい！

わかったよ。料金はおじいちゃんが支払うから、バーチャル水族館を楽しんでおいで。

おじいちゃんとお孫さんの場合

大画面のバーチャル水族館 音声に反応して画面が対応

わーっ、サメが大きくなった！まるで自分が海の中にいるみたい。

脚本に手直しを加えたものを送るわね。

考えた振付けを実際にやってみるから見れないか。

高度なテクニックを盛り込みたいよね。

だいぶ動きの方は固まってきたわね。

マルチ画面で コラボレーション

立体映像で振付けを配信

誰もが発信者に (ネット上の仲間とミュージカル制作)

アイツの振付け、カッコイイじゃん！ 僕も負けていられないぞ。

自称クリエイターの場合

u-Japan ICTが生活の隅々に浸透

障害者の場合

前方2mに自転車があります。注意して下さい。

センサーが障害物などを察知し、通知

横断歩道を歩行者が横断しようとしています。

速度を落として注意しなくては。

運転手にも注意を促し 事故の防止に貢献

前方5mの横断歩道を右に横断して下さい。

簡単操作で登録した目的地まで誘導

子供の様子をチェック 連絡事項もメールで確認

お知らせ 明日は遠足です。お弁当の用意を宜しくお願いします。担任

元気に遊んでいるみたいね。明日はお弁当だから買い物して帰らなくちゃ。

働く女性の場合

帰宅時間に合わせて 快適な生活をサポート

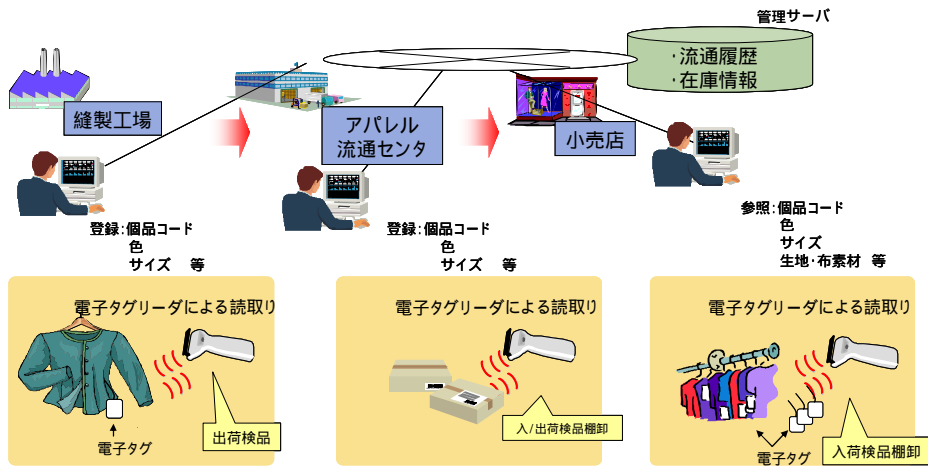
到着5分後入浴可能に

到着時までに掃除完了

沸上がり40分後にあわせて食事の用意

u - Japanの具体的な利用シーン例 (産業面)

企業内における生産管理プロセスの効率化



アパレル企業におけるサプライチェーンマネジメント (受発注・在庫・配送等の管理) の例

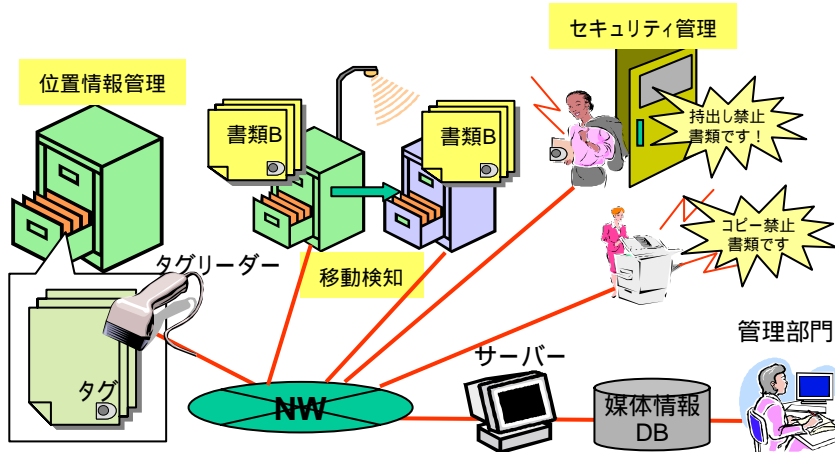
企業間の柔軟なコラボレーションの実現



旅行における利用者の様々なニーズをネット上で企業間連携を行い、一括処理するシステムの例

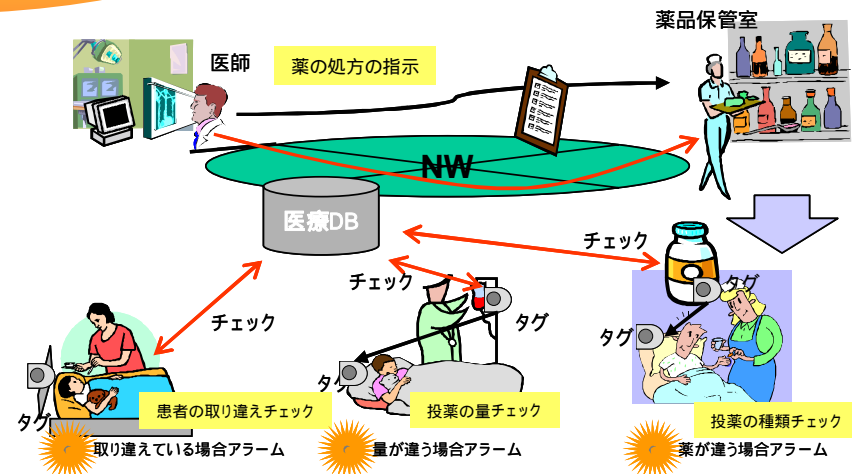
u-Japan ICTが産業の隅々に浸透

企業内における書類管理システム (書類の位置確認、セキュリティ管理等) の例



企業内における知識経営の高度化

病院等における医薬品の適切で安全な処方、投与等を支援するシステムの例



あらゆる産業におけるICT利用の浸透

u - JapanにおけるICT産業

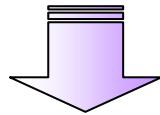
u - JapanにおけるICT産業の2つの役割

国際競争力を維持・強化するための日本の技術基盤の抜本強化

波及性の高いICTの技術基盤を高度化することで、日本の産業全体の技術基盤を底上げ

ICTの活用による社会的ジレンマの解消

医療・福祉、治安・防災等の様々な社会的ジレンマが、ICT活用により解消されるとの期待



u - Japan実現に向けてICT産業の目指すべき方向

情報化によって社会システムを変革することにより、日本発の技術開発と新ビジネス創出との好循環を発生させること

戦略的な社会システムの情報化を推進
日本が先進的ビジネス創出の最先端のテストベッドに

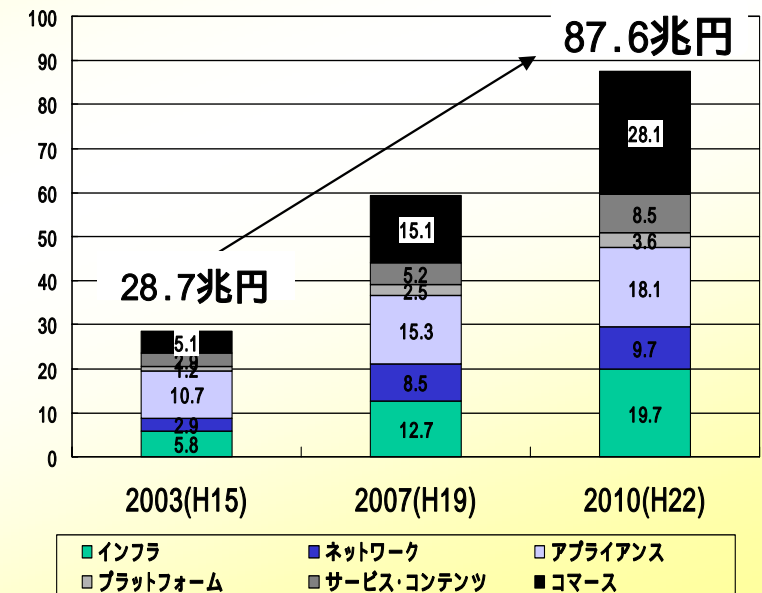
ICT産業自体の変革に取り組むこと

通信・放送サービスの連携、コンテンツサービス等の発展、コア・コンピタンス(競争優位)の明確化等

日本の得意分野を活かし、ユビキタス端末やユビキタスネットワークの開発を進め、ユビキタス・サービス市場を拡大

変革に成功すれば、2010年には87.6兆円の市場規模に成長する見通し

(兆円) ユビキタスネットワーク関連の市場規模予測



(出典)平成16年版情報通信白書

第 編 u - J a p a n 政策パッケージ

「u - Japan政策パッケージ」の全体像

2010年へ向けた将来課題（生活者のニーズ調査から抽出）

人に優しい心と心の触れ合い

- 高齢者に優しい住宅
- 若年・中高年の社会参加
- 交通渋滞・事故の削減
- 乗客のイライラ解消

利用者の視点が届け込む

- 災害時の安全確保
- 食の安心・安全
- 診療情報の効率的利用
- リサイクル・ゴミ処理の推進
- ショッピングの効率化
- 行政手続きのオンライン化

個性ある活力が湧き上がる

- コンテンツへの自由なアクセス
- 勤務形態の多様化
- ホワイトカラーの協業支援
- 生涯学習の普及

ICTの利活用が将来課題の解決に寄与

技術の成熟と普及定着

民産学官一体となって集中的・重点的な取組みを推進

利用者意識の向上

2010年には世界最先端の「ICT国家」として先導

u Japan政策パッケージ

2010年までに国民の100%が高速または超高速を利用可能な社会に

ユビキタスネットワーク整備

- 有線・無線のシームレスなアクセス環境の整備（電波開放、固定・移動融合、通信・放送連携等）
- ブロードバンド基盤の全国的整備（デバイス解消、地域情報化、デジタル放送、競争政策等）
- 実物系ネットワークの確立（電子タグ、センサーネット、情報家電、ITS、ユビキタス端末等）
- ネットワーク・コラボレーションの基盤整備（プラットフォーム、相互運用性、高信頼性、コード標準化等）

2010年までに国民の80%がICTが課題解決に役立つと評価する社会に

ICT利活用の高度化

- ICTによる先行的社会システム改革（社会・経営革新、物流・レガシー改革、制度改革等）
- コンテンツの創造・流通・利用促進（流通・決済環境、デジタルアーカイブ、電子政府・自治体等）
- ユニバーサルデザインの導入促進（E-ジェント技術、ユーザインタフェース、情報アクセシビリティ等）
- ICT人材活用（人材育成、教育改革、ベンチャー促進、市民参加等）

2010年までに国民の80%がICTに安心感を得られる社会に

利用環境整備

- 課題の整理・明確化（「影」を10分野・100課題に整理し、イメージを明確化）
- ICT安心・安全21戦略の推進（優先的に対応すべき21課題を抽出し、対応策を提示）
- ユビキタスネット社会憲章の制定（ユビキタスネット社会の基本原則及び共通認識を整理し、「憲章」として世界に発信）

国際戦略：国内にとどまらず、国際的な市場やネットワークを視野に入れた政策を推進（アジア・ブロードバンド計画の推進によりアジアを世界の情報拠点に）

技術戦略：重点分野の研究開発や標準化を戦略的に推進するとともに、持続的発展に向けたイノベーションを促し、国際競争力を高める

「u-Japan政策」の特徴

2005年まで

2010年まで

基本軸 : シームレスなユビキタス基盤の整備

インフラ

超高速ネットワークインフラ整備
高速3000万世帯、超高速1000万世帯
DSL、ケーブル、光ファイバ(有線系を想定)

ブロードバンドから
ユビキタスネットへ

シームレスなユビキタスネットワークの整備

国民の100%が高速または超高速を利用可能な社会に
有線から無線、ネットワークから端末、認証、データ
交換等を含め、継ぎ目のないネットワーク環境を整備

基本軸 : 21世紀の課題解決にICTを利活用

利活用

先導的7分野による利活用促進
医療、食、生活、中小企業金融、
知、就労・労働、行政サービス
情報化促進の視点が中心

情報化促進から
課題解決へ

社会課題解決型のICT利活用高度化

国民の80%がICTは課題解決に役立つと評価する社会に
社会システム改革等により、医療・福祉、環境・エネルギー、
防災・治安、教育・人材等の21世紀の課題を解決

基本軸 : ICTの利用環境整備の抜本強化

利用環境

情報セキュリティ対策
e-Japan戦略に「安全・安心な
利用環境の整備」を追加
情報セキュリティ対策に特化

利用環境整備
を抜本強化

利用環境整備で普及浸透に伴う不安を解消

国民の80%がICTに安心感を得られる社会に
ICT安心・安全21戦略を策定すると共に
ユビキタスネット社会憲章を制定し、世界に発信

u - Japan政策パッケージ(1): ユビキタスネットワーク整備

e - Japan戦略等により、有線系を中心に高速・超高速のネットワークが普及定着
(例) e - Japan戦略の目標(高速3000万世帯、超高速1000万世帯)を、環境整備としては既に達成

「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」簡単に
情報にアクセスできるユビキタスネットへの期待

シームレスなユビキタスネットワークの整備 ～サイバー空間の拡大と実物空間への浸透を推進～

有線・無線のシームレスなアクセス環境の整備

電波開放戦略の着実な推進

固定・移動の融合(FMC)促進

通信・放送の連携促進

IPインフラの高度化

ブロードバンド基盤の全国的整備

ブロードバンドのディバイド解消

地域情報化の推進

デジタル放送の推進

競争政策の推進

2010年までに国民の100%が
高速または超高速を利用できる社会に

実物系ネットワークの確立

電子タグ・センサーネット・ネットロボットの技術開発

情報家電のネットワーク化

ITS・GISの創造的活用

ユビキタス端末(脱PC化)の開発

ネットワーク・コラボレーションの基盤整備

ユビキタスプラットフォームの開発

異業種ネットワーク間の相互運用性確保

ネットワークの高信頼性確保

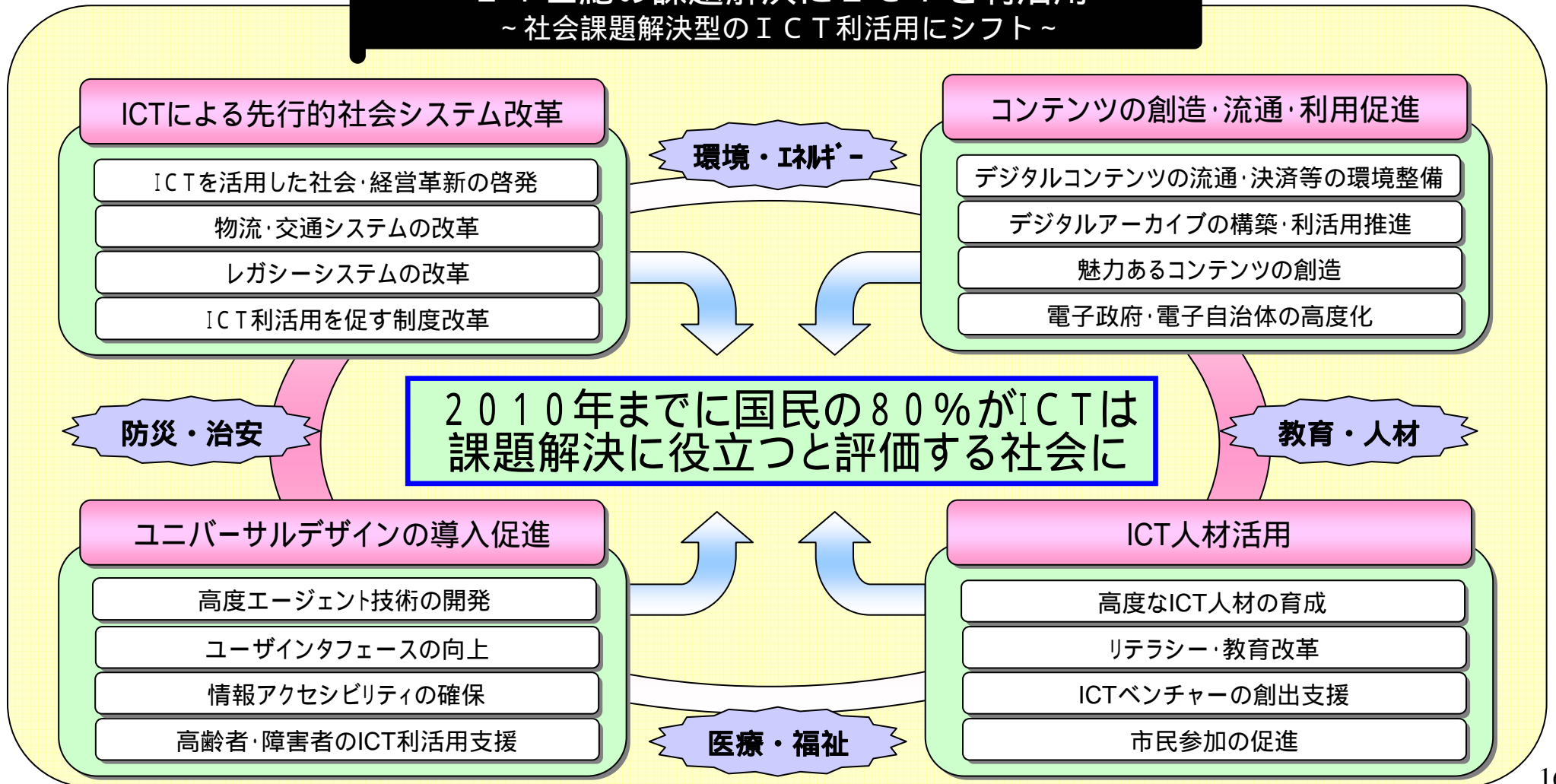
電子商取引時の商品コード等の標準化

u-Japan政策パッケージ(2): ICT利活用の高度化

e-Japan戦略 等により、利活用が遅れていた分野でもICTが普及定着
(例) e-Japan戦略 の先導的7分野: 医療、食、生活、中小企業金融、知、就労・労働、行政サービス

少子高齢化等で山積する課題に対し、
ICTの利活用がブレークスルーとなる期待

21世紀の課題解決にICTを利活用 ~ 社会課題解決型のICT利活用にシフト ~



u-Japan政策パッケージ(3): 利用環境整備

ユビキタスネット社会に対する期待の一方で、多くの不安や障害が残されているのが現実

(例) 「いつでも」 24時間ネットにつながっていて、プライバシーの確保は本当に大丈夫か？

「影」の部分についての理解を深め、
課題を整理しておくことが必要

ICTの利用環境整備の抜本強化 ~ユビキタスネット社会の不安や障害を速やかに解消~

ユビキタスネット社会の「影」を10分野100課題に整理し、具体的なイメージを明確化

ICT安心・安全21戦略

有識者への100人アンケート

社会的影響力が大きく、対応が遅れている
優先21課題を明確化して、戦略策定

ユビキタスネット社会憲章

ユビキタスネット社会の基本原則や
共通認識を「憲章」として総括

自由で多様な
情報流通

安心で安全な
情報流通

調和

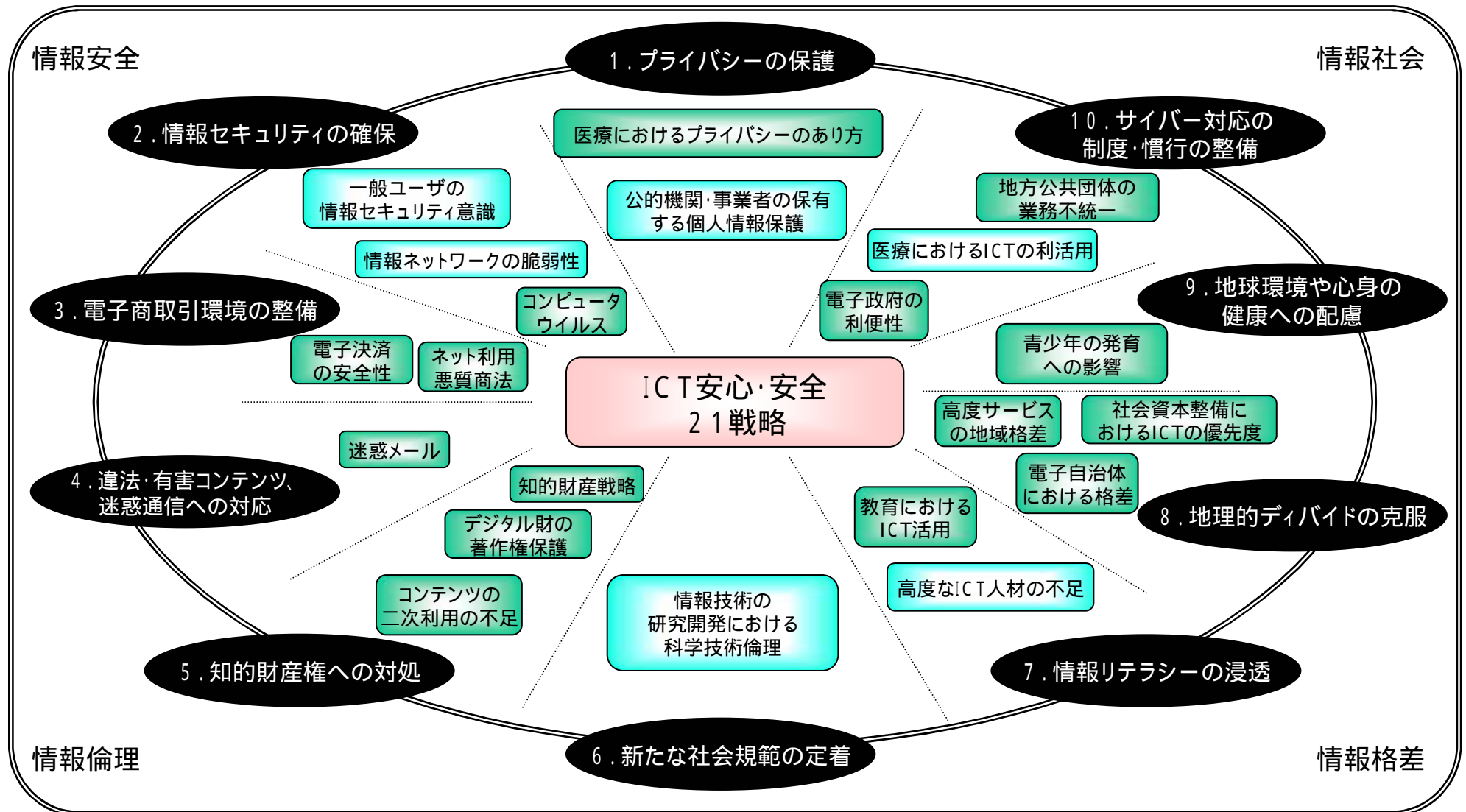
サポート

新たな社会基盤の構築

2010年までに国民の80%がICTに安心感を得られる社会に

u-Japan政策パッケージ(3):「ICT安心・安全21戦略」

優先的に取り組むべき課題として、社会的影響度が高く、対応策が不十分な21課題を10分野の中から抽出し、それらの解決策を利用環境整備の重点戦略として策定。



u-Japan政策パッケージ(3):「ユビキタスネット社会憲章」の概要案

前文

ICTの潜在的可能性、未来社会に向けての役割等
「ユビキタスネット社会」の定義、目的、意義等
自由で多様な情報流通と安心して安全な情報流通の調和
憲章の位置づけ

自由で多様な情報流通

情報の受発信に関する権利

ネットワークへのアクセス、公開情報へのアクセス、ネットワークを通じた情報の発信、地理的デジタルデバイドの解消

情報内容の多様性

コンテンツの多様性の確保、アクセス手段の相互運用性の確保、自由に利用できるコンテンツの充実、公的機関の情報公開の促進

経済社会の情報化の推進

ICTの利活用の推進、電子商取引の健全な発展、公的分野における情報化の推進、利用者の利便性を高める基盤の整備

情報活用能力(リテラシー)

ICTによる利益享受の均等化、専門家の育成、ユニバーサルデザインの確保、分かりやすい言葉や表現の利用

安心して安全な情報流通

プライバシー

ネットワークからの独立、個人情報の保護、プライバシーの確保、適正な撮影の確保

情報セキュリティ

ネットワークの安全確保、不適切な利用の回避、セキュリティ技術の開発

知的財産権

著作権等の保護、技術による権利保護

情報倫理

情報倫理の確立、違法・有害コンテンツ等の回避、科学技術倫理、コンテンツ制作者の倫理

調和

サポート

新たな社会基盤の構築

現実社会とサイバー社会の調和

サイバー社会に対応した制度整備、新たな社会規範の確立、循環型社会への配慮
適時適切な政策の実現

地域的・国際的な協調・協力体制

政策立案への多様な主体の参画、地域社会における協調・協力体制、国際社会における協調・協力体制

u-Japan政策パッケージ(4): その他横断的な施策

ユビキタスネット社会は本質的にグローバル
ユビキタスネット社会は技術革新が原動力

⇒ 国際的な市場やネットワークの視点が不可欠
⇒ ICT分野の研究開発・標準化が戦略的に重要

横断的な国際戦略・技術戦略が不可欠

国際戦略

国際的な連携の推進

欧米各国・国際機関との連携強化
WSIS(世界情報社会サミット)への貢献
ITU等における標準化活動の強化
EPA/FTAの推進
国際社会に対する情報発信力の強化

わが国の国際的プレゼンスの強化

アジア・ブロードバンド計画の推進

アジア各国との協力関係の構築
ネットワーク・インフラ整備の推進
アプリケーション導入、コンテンツ流通、基盤技術開発の推進
ICT分野の人材育成の推進

アジアを世界の情報拠点に

技術戦略

ユビキタスネット社会に向けた研究開発戦略

新世代ネットワーク
新世代モバイル
未来型ICTネットワーク
ヒューマン・コミュニケーション
ユニバーサル・プラットフォーム
ユニバーサル・アプライアンス
ICTの安全
ICTによる安全
民産学官連携体制の強化

世界に先駆けたユビキタスネットワーク技術の実用化

標準化の推進

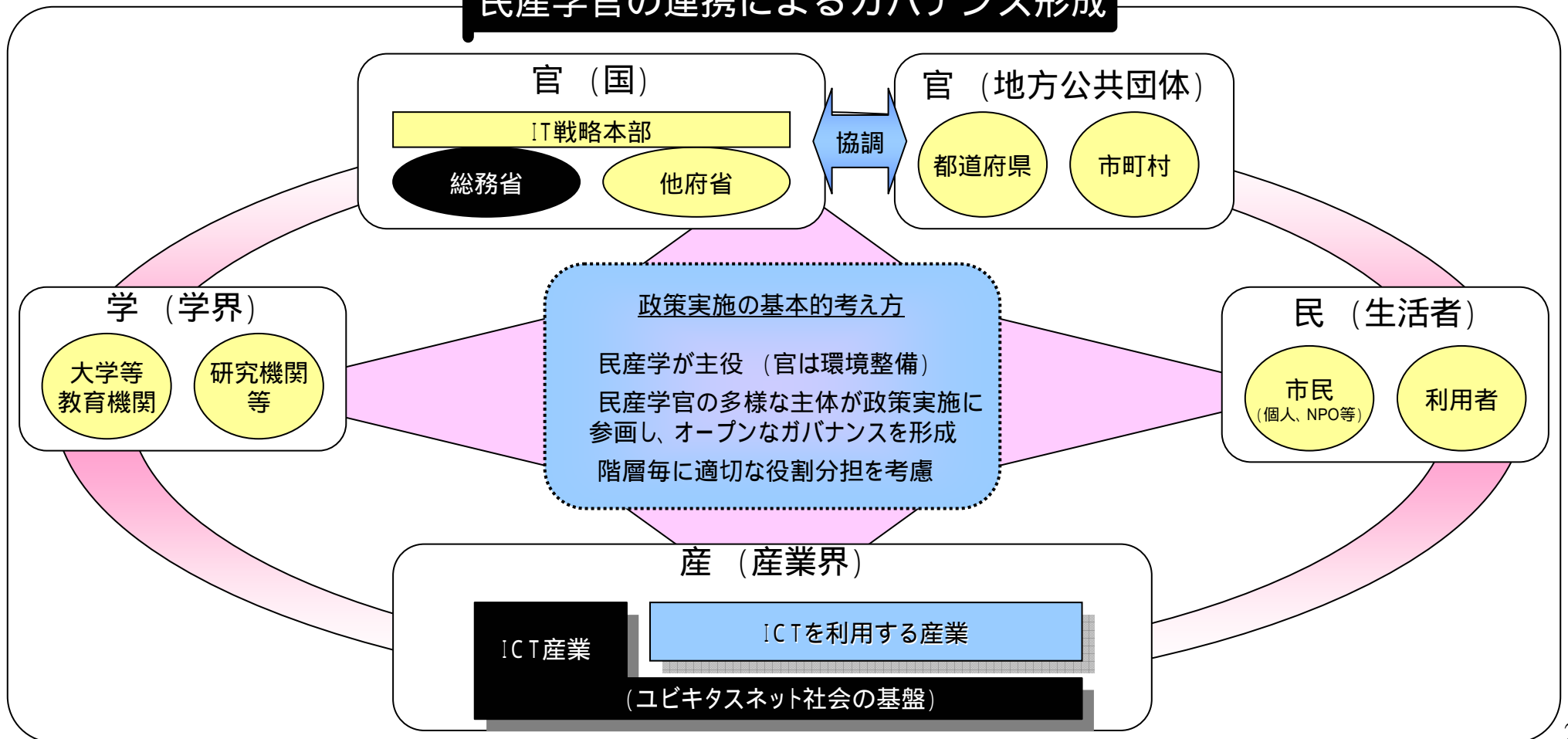
次世代ネットワーク(NGN)等の国際標準化
国際標準化提案支援等の標準化活動の強化

第 編 u - J a p a n 政策実施のあり方

民産学官の有機的な連携

- ユビキタスネット社会はわが国の活力を創出 ⇒ 民産学が主役となって社会経済を牽引、官は環境整備や市場原理の補完を適時適切に実行
- ICTを活用して多様な社会的課題を解決 ⇒ 民産学官の多様な主体が政策実施に参画し、オープンなガバナンスを形成することが不可欠
- インフラ整備や標準化等での多面的連携が鍵 ⇒ 階層毎に適切な役割分担を考慮

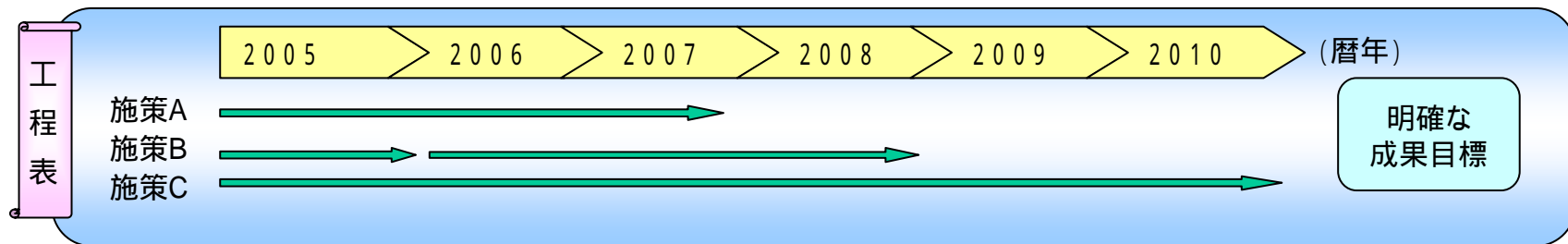
民産学官の連携によるガバナンス形成



工程表とPDCA

工程表の策定

u - Japan政策の実効性を高めるため、総務省に対し「工程表」の早急な策定を要請
2005年から2010年までの具体的なスケジュールを明示
明確な成果目標を設定



PDCAの実施

u - Japan政策の進捗管理を行うため、総務省に対し「PDCA」の実施を要請
Plan(計画) Do(実施) 評価(Check) 改善(Act)のサイクルを推進
評価の結果次第では、政策の不断の見直しを実施

